ウオーターゲート事件のトリガー？

1974年８月８日、ニクソン大統領は「ウオーターゲート事件」の結果、辞職。事件は、ニクソンの再選を狙う集団がこの２年前に民主党全国委員会に侵入したという告発がされたものである。
公にはされなかったが、その前年の1971年、ニクソンは国税庁で働く大勢のユダヤ人活動を調査するように当局に指示していた。アメリカの裕福なユダヤ人が支払うべき税金を払わなくてよいように国税庁が取り計らっているのではないかと懸念したためである。ユダヤ人の財産が調査されるかもしれないとなった途端に事件が起きて、歴史上一度しかないアメリカ合衆国大統領辞任につながったのは、何とも興味深いことではないだろうか。

（『ユダヤ・ロスチャイルド世界冷酷支配年表』p232）

これが実際にウオーターゲート事件のトリガーになった可能性もあります。いずれにしても英王室、ロックフェラーという300人委員会のトップと大物の意向があったはずで、ニクソン大統領は闇側からの排除の対象になっていたのです。